第６回　県立高校教育振興検討会議　議事概要

１　日　時　　令和６年３月 25 日（月）　13:00～14:00

２　場　所　　富山県民会館 302 号室

３　委員出席者　　荒井　公浩　　池永　美子　　上田　良美　　亀谷　卓朗
近藤　智久　　品川　祐一郎　　鈴木　真由美　　高瀬　幸忠
田辺　惠子　　鳥海　清司　　中村　総一郎　　松山　朋朗
水口　勝史

４　会議の要旨

司会が開会を宣した。

議事事項

○　県立高校教育振興の基本的な方針について（提言）（案）

事務局から資料に基づき、本会議における検討事項の確認と検討に当たって参考とする事柄などについて説明した。

（会長）

新年度の総合教育会議において、私どもの会議の提言を踏まえて、県立高校のあり方に関する基本的な方針等について議論が深められる予定と伺っています。本日ご出席の委員の皆さんには、修正した提言案についてのご意見や今後の総合教育会議における検討に向けたご提案、留意すべき事項等を含め、忌憚なくご意見を頂戴できればと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（委員）

今回示された提言案には、生徒の幅広い選択肢を確保するために学科構成や学校規模の多様化を維持することや、社会や生徒のニーズに応じて学科やコースについて見直すことなど多くの取組みを盛り込んだ内容になっていると思います。

一方で、高校再編の方向性については、本会議でも採用基準を一律的、一方的に当てはめるといった対応ではなく、個々の実情に応じて柔軟な対応をすることが望ましいという考え方で合意されていたと思います。

生徒ファーストの立場から、いろいろな視点があると思いますが、柔軟に対応するなど一律ではないといった考え方がわかるような表記を、特に概要のところに加えるとよいのではと感じました。

また、基本的な方針の中に、教える側の負担をどのように考えていくかといった内容が含まれていてもよいのではと感じています。いろいろと新しいことを行うことになると、教える側のリソースも考えていかなければならないと思います。おそらく新しいことをするためには、教える側の負担が増えていくことになるので、生徒が自分に合った学びに向

かうためには、教える側と教わる側の両方の環境整備が必要だと思います。
　先ほど議会からのお話があったということもありますが、いろいろな取組みをするためには、事前に関係機関や地域の方々、保護者の方々、生徒への情報共有や意見交換、協議調整とが必須だと思います。特に高校再編については、長期的な展望に基づき考えなければならないことが様々あると思うので、新しいタイプの学校や学科についての検討とあわせて、多くの関係者の意見を踏まえながら、十分に議論いただきたいと思います。
　農業科の資料について、「中学生が学んでみたいと思える」というところを修正したとのことでしたが、そのままになっている部分があったので、資料の確認をお願いします。

（事務局）
　資料２の７ページにある農業科における「学科・コースの見直し」の中の３つ目に残っていたので、その部分を削除し、「テクノロジーを生かした農業教育の実践」とします。

（委員）
　「目指す姿」において、「魅力ある高校教育を通した「ウェルビーイング」の向上～学びたい、学んでよかったと思える高校づくり～」とビジョンを明確に謳っていますが、知事が非常に大事にしている子ども中心の視点にかなり特化した非常にいいビジョンが形成されたのではないかと思っています。
　また、学科・コースの見直しについては、これまで皆さんから出た様々な意見やアイディアが盛り込まれたと思っています。どの学科についても今風にアレンジがされており、より分かりやすくなっていると思います。例えば、普通科のデータサイエンスや農業にテクノロジーを入れること、水産科の６次産業化、工業科の工業デザイン、商業科では起業家精神といったように、男女の隔てがなく、どの子どもたちも学んでみたいと思えるものにアレンジされたのが大きな特徴だと思うので、魅力ある教育課程がこれから実現できるのではないかと想像しています。
　子どもの数がかなり減っているので、再編統合は致し方ないことだと思っています。これはお願いになりますが、特に再編統合する学校については、「よりよい高校を新しく作る」といったように夢を盛り込んだ高校に作り上げていただきたいと願っています。
　そのためには、教職員や教育関係者の方々、地域地元の関係者の方に、これまで以上に丁寧な議論と時間をかけた説明や誠意ある姿勢を示していく必要があるので、ぜひ時間をかけて実行していただきたいと思います。

（委員）
　今回、提言という形でまとまりましたが、これが目的ではなく、来年度以降も議論を深め、学びたい子どもたちのためにしっかりと学びの保障をお願いしたいと思います。
　また、「生徒が一定の通学時間内の高校から多様な選択ができるよう」とあります。これは、県内の地域公共交通事業者とも関係してくる内容ではないかと思うので、教育委員会だけでは検討できないことも多数出てくると思います。総合教育会議では、県庁の各部局や民間など、いろいろと連携しながら推進していただきたいと思います。

（委員）
　これまで、再編や学科構成、特に再編対象となる基準について議論を尽くしてきました。再編・学科のガイドラインはこの提言に方針が示されたので、あとはそのフレームワークの中で、Society5.0の社会を生きる子どもたちにどのような教育を行うかというビジョンの共有が大事だと思っています。
　今までの学校では、知識のインプットを機械的にアウトプットする要素が多かったのではないかと思いますが、今後は、「自分の人生と社会がより豊かで幸せなものになるため」に必要な知識・技能・コミュニケーション力を高める、伝授する、学ぶといった教育へ、先生方も保護者も考え方を転換することが大事だと思います。
　学校経営計画に、「ＰＤＣＡサイクルを回す」ということがよく出ていますが、ある学校では、ゴールの頭文字のＧを加え「ＧＰＤＣＡサイクル」ということで、人生のＧｏａｌすなわち最上位目的を考え、その後にＰＤＣＡを回すことがなされているそうです。大学進学や就職などのその先にある、よりよい人生とは何か？ということを小中高の間で考え、そこから逆算して、今の学校生活を主体的に過ごすことができれば、子どもたちはますます活き活きして、富山らしい教育になるのではないかと考えます。
　先生方は、様々な変化に対し、大変なご苦労をされていると思います。保護者側もそうしたことを理解して、知識の詰込み型の勉強だけではなく、ワクワクした未来を創っていくための教育を進めていければと感じています。

（委員）
　少子化が止まらないということで、学校規模に関する問題が一番大きかったように思います。豊かな高校生活を送るための数字を追うことはとても大切なことだと思います。また、学科・コースに関しては、学級数とともに考えるのがよいと思っています。特色ある南砺平高校は、全国区の高校になっていくと思うので、そうしたことも生かしていければいいと思いました。

（委員）
　この提言については、各学科共通の視点のページが増え、学科やコースの見直しに関して全体的なことに触れている点は、非常に進歩したと思います。
　また、いろいろな立場や考えをもった方がいらっしゃる中で、子どもを中心に据えていることは、まさにその通りであり、今後の総合教育会議においては、より長期的な視点に立って、議論されるのがよいと思います。例えば、小学校から中学校、高校へと進んでいくと、より活動範囲が広がり、いろいろと社会との関わりが増えてきます。そして、やがては就職などで社会に出ることになります。高校における活動範囲が広がることに鑑みると、学校や学科などの再編について前向きに検討していくべきだと思います。
　また、コロナ禍により、オンライン化した授業など、一度に多人数に教えることができるような変化がもたらされました。長期的な視点に立つと、今後はオンラインなどをもっと活用し、一度に大勢の人に講義する一方で、より少人数の子どもたちに対して学びの支援をするといったことが必要になると思っています。
　子どもたちには選択することを通して成長してもらいたいと考えており、学びについて

も、我々が「こうしなさい」と決めるのではなく、子どもたち自身が学びたいと思うところを選択して成長できればよいと思います。より長期的な視点に立ち、総合教育会議において、子どもファーストを貫いて検討されることを願っています。

（委員）

この検討会議における議論は、「子どもたちにとって本当に充実したよりよい教育環境の提供」が始まりとなっています。提言の最後には、「高校再編も検討することが望ましい」という文言が入っており、目指す学校のために統合が必要であれば、統合することになるのだろうと思っています。

市町村でも、学校統合を進めながら、より充実した教育環境を提供し、子どもたちのより深い学びに繋がるように取り組んでいますが、その際には、教育課程の見直しが必要で、高校では、学科やコースの改編がそうしたことの中に含まれると思います。仮に学科やコースを改編しなかったとしても、学びの再構成は必要だろうと思います。

また、それを支えるため、教員の配置や外部、民間の方、高いノウハウを持った教員ＯＢなど幅広い人材の活用も必要だろうと思います。

そして、先ほどオンラインについての発言があったように、オンラインの環境など施設整備といったことを含めて、今後、実行計画を作る段階では、これまで議論してきたこの基本方針をベースにして、具体的に何が必要で、どう整えていくのかを念頭に置きながら進めていけば、子どもたちにとって非常に充実した学びの環境が富山県で実現できるのではないかと期待しています。

（委員）

この提言については、大変よくまとまっており、５回に及ぶ検討会議で話し合った内容がしっかりと反映されていると感じています。私は、修正や補足する必要はないと考えています。

新年度からは、総合教育会議でさらに検討が進められるとのことですが、先ほどの委員からもあった通り、ぜひ今年度の検討会議の提言をベースにして、検討を深めてもらいたいと思っています。

提言にある県立高校の充実等に向けた取組みに関することは、本県においても大変大きな改革だと思います。その中でも、特に学科・コースの特色化や様々なタイプの学校・学科の設置については、どうしても予算が必要であり、その教育予算の確保については、知事部局の各部署が県立高校のあり方を理解することが必要だと思います。今後とも、県教育委員会や知事部局の各部署などが連携をさらに深めていただくことを期待しています。

その一方で、必要に応じて、学校現場の意見も聞いていただき、少しでも検討材料となればよいと考えています。日頃、生徒と向き合っているのは、学校の教員であり、教員は現在においても、未来においても、生徒の成長とさらなる向上を願う気持ちに変わりはありません。

今後とも生徒が学びたい、学んでよかったと思える高校づくりを目指して、取り組んでいただきたいと願っています。

（委員）
私は、生徒たちがどのような高校を選択したくなるかや、選択するにあたりどのような悩みがあるかということを主な視点にして考えてきました。その結果、学科やコースの学習内容についても踏み込んだ議論ができたのではないかと思っています。
未来を生きる子どもたちのためには、これまでの学科やコースだけでは立ち行かない部分があるのではないかという思いを皆さんがもっていらっしゃるのだろうと思っていました。このような新しい高校づくりをするためには、やはり教職員の力が大きいと思っています。新しい学びや多様な学び、未来を拓く学びのためには、教職員がたくさんの研修を行う必要があるかもしれません。新たなことがどんどん積み上がり、もしかすると負担が感じられるかもしれませんが、未来に生きる子どもたちのために何が一番大切なのかということを考えながら頑張っていただきたいと思っています。

（委員）
ここ数年、急激に現場は変化しています。これまでの教育が通用しないような、また、これからどのようなことが起こるかわからないような時代において、教育は大きな変革期を迎えていると実感しています。その中で、富山県の教育の質を向上させるためには、最初から議論している通り、高校再編について一定基準の学校規模は必要だと感じています。
これまで議論を重ねてきましたが、今後、この方向性で進めていただき、子どもたちがある程度の人数の中で、多様な考え方に触れ合う機会をもてるように、また、教員も一定の人数で子どもたちに学びを提供していけるようになればよいと考えています。
それと並行して、子どもたちがこれから必要になる力を身につけられるような学科の検討をしていただきたいと思っています。その中には、不登校生徒や外国人生徒など、誰一人取り残さない学びの保障の視点も必ず取り入れていただいて、進めていただけたらありがたいと思います。

（委員）
学校規模については、中規模校にも小規模校にもそれぞれのよさがあることを、これまでの会議でお話してきました。そのため、学校規模で再編対象にするかどうかを議論するのはどうなのだろうという意見をもっていましたが、提言には、「様々な学校規模」という表現が組み込まれたのがよかったと思っています。
学科・コース見直しについては、時代に合わせて柔軟に変化していくものであり、踏み込んだ提言になったと思います。しかし、先ほどからもありましたが、現場の教員が変化に対応できるかどうかが大事になると考えています。教員の学ぶ時間の確保がなければ、単なる負担増に繋がる可能性があり、本来の目的を果たせない可能性があると思います。
私はこの提言の中で一番気にしているのが、資料２の 15 ページにある「外国人生徒に係る特別入学枠」についてです。私立高校では、外国にルーツを持つ生徒を受け入れ、その割合は増え続けています。中学校側から、生徒の学力や日本語能力を懸念して頼まれるといったことが実情です。そういった生徒は、主の日本で働くために海外から来た方々のお子さんになります。生徒にとっては日本に来るタイミングがバラバラなので、日本語の習得度合いもバラバラです。今後ますます労働力が不足することが見込まれる中で、富山県

として、そういった外国にルーツを持つ生徒をどう育てるのか、対応が急務だと思います。私立高校への支援がないのであれば、公立、県立の学校の入学枠を作るべきだと思います。労働力不足が厳しい中で、数多くある高卒求人に応えることができないのが現実なので、外国籍の力は必要不可欠だと思っており、教育委員会と行政でしっかりと議論し、先延ばしにせず、対応してほしいと願っています。

（委員）

普通系学科における「学科・コースの見直し」の最後に「スポーツに深い関心を持つ生徒が、個々の能力を最大限に発揮できるよう、スポーツに関する様々な種目・理論を幅広く学習することができる」という部分が追加されたことは、大変ありがたいことだとおもっています。しかし、スポーツと言うと競技成績だけに目が行くことが多くなっている気がしています。スポーツに関心を持つことは非常にいいことですが、その前に基礎学力をしっかり身につけた上で取り組んでほしいと思います。

全体については、多様な立場にある委員の方々から多様な意見をたくさん出していただき、その内容をうまくまとめたものがこの中身になっているのではないかと思います。

この検討会議では、生徒数の劇的な減少に伴って教員配置が変化していく中で、生徒へ多様な学習内容を提供することや、多様な人との交流を実現できるという観点から、学校規模や学科・コースの見直し、様々なタイプの学校・学科等について検討してきました。学科・コースの見直しや様々な学校については、社会の要請に対応できるように新学科を設置することや新しい学習内容を取り入れること、新しい学習方法を取り入れることなどを提言していると思います。

これらを実現するためには、教員の負担が増大することが予想されます。これまでの教育改革の多くは、現場の教員の負担増によるところが多かったように思います。提言で示されている新たなことを実施するにあたっては、教員の働き方改革に逆行することがないように、教員配置や予算について手当をしていく必要があるのではないかと思います。

学校規模については、現状の学級規模を前提にして、生徒へ多様な学習内容を提供するとともに多様な人との交流を実現していくことを提言しています。生徒を手厚く支援するためには、少人数学級を実現していくことも重要ではないかと思います。国が法を変えるよりも前に、県独自で少人数学級を進め、その基盤となる予算配分を行うことについて検討していただくことも必要ではないかと思います。

（委員）

出生数の減少が著しい中、県立高校の再編統合は避けられないと思います。学区制が廃止され、子どもたちが行きたい学校を選べることは大変喜ばしいことだと思います。しかし、家庭の事情などで近くの学校を選ばざるを得ない子どもたちもいるはずです。都市部の子どもたちと田舎の子どもたちの格差が起きないよう、地域バランス等を配慮した再編になることを願っています。また、今後も出生数の減少が続く以上、どのスパンで再編統合を行うのかも明確にしてはいかがでしょうか。

（アドバイザー）

この提言案について、大きな修正意見はありません。ウェルビーイングについては、文脈を知らない場合にも意味が通じるように、脚注などで定義を示すとよいのではないでしょうか。

高校教育については、教育委員会だけで議論がしきれない政策領域です。今後、総合教育会議や公私協議会等において、関係者を交えた協議を進める必要があります。その際、教育委員会は、協議に必要なデータや資料をしっかりと準備すべきです。高校教育の今後のあり方の検討には、高校が設置されている基礎自治体や高校の同窓会組織、地元経済界等の関係者に対して、特に丁寧な説明が必要です。それを踏まえつつ、生徒自身と保護者の利益が最大となるように教育委員会は努めるべきです。例えば、通学に困難を抱える家庭に対する配慮は必須です。県と市町村との連携を強化しつつ、高校教育を展開していただきたいと思います。

また、今後さらなる少子化が急速に進行することを考慮した長期的な検討を直ちに進めるべきです。極端な例をあげれば、県のどこかに全寮制の大規模校を１校設置すれば事足りるわけではないので、小規模校の存在を前提とした県による高校教育の提供のあり方をゼロベースで検討すべきです。

例えば、本提言では、一つの高校で完結した教育サービスの提供モデルを前提としていますが、今後はそのモデルを前提とすることはできません。高校同士のさらなる連携や学期ごとに学ぶ場を変える学習のあり方も検討すべきです。国の政策論議や制度改正の動向は、しっかりとフォローすべきです。すでに制度上、校長や設置者の判断でできることは増えていることから、県がボトルネックとならないようにすべきですし、校長の職務についても新しい時代に対応できる資質、能力を明示すべきです。

一人一人の子どもたちが最良の将来を手にすることができるよう、よりよい高校教育を提供できるように検討を始めていただきたいと思います。また、進学校にも、さらなる良質な教育環境を提供できるよう、真正面から議論を行うべきではないでしょうか。

（アドバイザー）

この提言は、これまでの意見をうまく集約し、わかりやすく表現されていると思います。

「県立高校の目指す姿」において、子ども中心の視点に立った実効性のある取組みを進めていくことが提言されていますが、これが最も重要な視点であると認識しています。いずれの自治体においても、高校再編をめぐっては、様々な意見や利害が対立することになりますが、高校に通う子ども、そして通わせる保護者にとって何が最善であるのかを基軸として考え、将来の教育のあり方について選択していく必要があります。

そのためには、現在の高校における教育活動について正確に評価・分析し、それを生かして学校の改善サイクルを着実に回していくことが求められています。先を見通すことが困難になっているこれからの時代においては、これまでの慣習にとらわれた経営では立ち行かないことは明らかで、その時々にデータをもとに議論し、方向性を決めていく必要があります。これは学校レベルにおいても、教育行政レベルにおいても同様です。その学校の「強み」＝「魅力」は何か、どのようなリソースを活用できるのか、生徒や保護者、地域は何を望んでいるのかを正確に把握し、その上で、地域や大学、企業との連携や、高校間

や中高間などの学校間連携、遠隔教育等を上手に活用し、これからの変化に対応していただければと思います。

具体的な学科やコースの見直しについては、県としての今後のあり方にも大きく関わってきます。産業構造や社会生活が劇的に変化していく時代においては、そうした社会の担い手となる未来の青少年が、どのような資質、能力を身につけることが必要であるのかを考えることは必要ですが、社会にとっての個人、そして「地方創生」の文脈における地域社会にとっての若者という見方だけではなく、未来の青少年個人にとっての教育的意義を最大限重視して、今後のあり方について地域社会と丁寧に議論しながら選択されることを期待しています。

委員の皆さんの地元の教育のあり方に対する様々な思いを直接お伺いすることができ、具体的な地域レベルで高校のあり方を考えていく難しさとともに、その展望についても再認識しました。どうもありがとうございました。富山県の教育の今後ますますの発展を祈念いたします。

（会長）

何人かの委員の方々も仰っていましたが、目指す方向やあり方など全体のビジョンや、学科・コースの見直し、具体的な高校の再編基準について、これまで６回の会議で議論は尽くされたのではないかと感じます。この後は総合教育会議で、より大所高所の大きな視点から議論をいただき、その結論を出す中でしっかりと説明責任を果たし、地域との対話も進めていっていただきたいと思います。

全体を通じて大切なのは、子どもファースト、生徒ファーストということだと思います。また、それを前提に何人かの委員の方も仰っていましたが、研鑽の機会の提供や負担の軽減を含め、教員の皆さんへの配慮の必要性を感じました。

また、外国ルーツの生徒への配慮や、先ほど少人数学級についての提言もありましたが、そういった多様な選択肢や多様な学びによる多様性への配慮も併せて、今後の議論や行政運営の中で検討いただきたいと思います。

提言の修正要望として、この再編基準を必ずしも一律に適用するものではないといったことや、教える側の負担への配慮に関する記載、少人数学級の話などがありましたが、最終的に修正が必要かどうかの検討を事務局の方でお願いします。また、最終校正については、会長である私に一任いただければと思いますので、よろしくお願いします。

それでは以上をもちまして、県立高校教育振興検討会議の全ての協議を終了させていただきます。委員の皆さんには、昨年６月から、大変ご熱心にご協議いただき、数々の貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。

議事が終了したので、会長が終了を宣し、進行を事務局へ戻した。

５　教育長挨拶

（教育長）

品川会長をはじめ、検討会議の委員の皆様には、昨年の６月から６回にわたって、１年近くこの検討会議で活発にご議論いただき、本当に深く感謝を申しあげます。また、１月

には、「市町村との意見交換会」や地域の方との意見交換ということで「県立高校教育振興フォーラム」を開催しましたが、委員の方にもご参加をいただき、重ねてお礼を申しあげます。おかげさまをもちまして、提言の案が大方取りまとめの方向に向かってまいりました。本日賜ったご意見も含め、事務局の方で検討し、品川会長とご相談をした上で、最終とりまとめにしたいと思います。

本日の議論にもありましたが、子ども中心の理念として「学びたい、学んでよかったという高校教育」を目指すことや、多様な選択肢を確保するといったことが中心に据えられ、理念がきちんと定まった提言案になったことをありがたく思っています。

また、多様な生徒をしっかりと支える学びの機会を保障することや、外国籍のお子さんも含めて学びの機会を充実させていくとことにしっかり取り組んでいかなければいけないと思います。教員の環境について、しっかりと自分を高めながら、ゆとりをもって学び、子どもの学びを支えられる環境づくりをすることが非常に大事だということをこの提言案の中に示すことができればと思います。

さらに、より長期的な視点での検討も今後必要というご指摘もその通りだと思いました。

これらのご意見を踏まえ、最終の提言案としてまとまれば、それを受けて新年度、知事が主宰する総合教育会議に検討の場を移し、地域や産業界、保護者の代表の方などにもご出席をいただき、幅広くご意見を伺いながら議論を進めていくことになると思います。

本日のご指摘にもありましたが、どのように共感を頂戴するかということが一番難しいと思います。これまで以上に、丁寧な議論や分かりやすい説明を尽くしていく必要があると思っています。教育委員会としても、しっかりと取り組んでいかなければいけないと思っているところです。

委員の皆様には、これまで本当にお忙しい中、それぞれの立場でご熱心にご議論いただいて重ねてお礼を申しあげます。今後も高校再編や高校のあり方の議論が続きますが、皆様には折に触れてご助言を頂戴したり、ご相談申し上げたりすることもあるかと思います。今後ともよろしくお願い申しあげまして、ご挨拶といたします。本当にありがとうございました。

６　閉会

14 時 00 分、司会が閉会を宣した。